

# つながる Letter

第71号 令和7年9月発行



こんにちは！今月の担当は理学療法士の佐野です！よろしくお願いします🌟  
私は病院で5年間、つながるに就職して早4年が経ちました。皆様に支えられ、毎日たのしくリハビリをしております。  
食べることが大好きですが、最近は、筋トレをして姿勢矯正とダイエットを頑張っております😊

今回は、私が在宅リハビリを始めた頃の体験をお話したいと思います。

この出来事は、利用者様や家族様との関わりを大切にしたいと感じるきっかけのひとつになりました。

その利用者様と関わらせて頂いたのは4年前。約1年半、リハビリで介入していました。

利用者様は、90代で認知症があり、息子様とお嫁様の3人暮らし。主にお嫁様が介護をしていました。

本人様は、自宅から出ることを好まず、自宅で過ごすことが好きな方でした。自宅での生活ばかりで活動量が低く、外部との関わりが少ない状態。デイサービスの利用を好まなかった為、少しでも運動をしてもらえるように在宅リハビリを利用することになりました。

リハビリ介入は、週1回の40分。リハビリの受け入れはあまり良くなく…コミュニケーションを図りながら、少しずつ四肢の運動、立ち上がり、室内歩行を行うというプログラムを組んでいました。

ある日、お嫁様より、「おばあちゃん、写真が嫌いな人でね。写真を撮らせてくれないの」と。試しに自宅のカメラを貸して頂き、撮影をしようと試みましたが、顔を背けてしまい失敗。暫くして、スマートフォンでの撮影に挑戦！本人様といつも通りコミュニケーションを図り、ファイルでスマートフォンを隠しながら撮影をしました。本人様にとっては、隠し撮りになってしまいましたが、なんとか写真を残すことができました！お嫁様には、「いつも通りのエプロン姿のおばあちゃんを残すことができ本当に良かった！」と、とても喜んで頂くことができました🌟その後、暫くして認知症の症状が強くなり自宅での介護が難しくなった為、施設へ入所。リハビリの介入が終了となりました。施設へ入所してから約4か月後に施設で永眠したとお嫁様より連絡を頂きました。遺影は、今回のエピソードの時に撮影した写真を使って頂けました。とても素敵でした。

## 在宅リハビリを通じて思うこと

病院リハビリ、特に回復期ではリハビリの時間をしっかりと取ることができ、リハビリ器具が揃った環境である為、患者様の機能回復に専念できるという利点があります。その為、病院では患者様が自宅へ退院した際に必要な機能や動作を獲得できるよう支援することが大事です。一方、在宅リハビリでは病院で獲得した機能や動作を維持向上していくために支援していくことが大事です。病院に勤務していた時は、主に患者様と1対1で接しており、家族様とは入退院のカンファレンス等で面会するくらいでした。在宅リハビリでは、自宅の環境でリハビリができることはもちろん、家族様と接することが多いため利用者様の全体を知ることができます。利用者様だけではなく家族様と関わる事ができることも魅力的だと感じています。

今後もその人の生活に合った、その人らしいリハビリの介入ができるよう支援していきたいです。

## 【脳トレ】

Q：鈴が落ちていても気づかないふりをする  
秋の生き物は？

—— 前回の答え ——

Q：次のパーツを組み合わせて出来る二字熟語は？「斗」「王」「米」「里」 答え：料理

つながる訪問看護リハビリステーション

〒502-0916

岐阜市西中島4丁目2番8 中日本アパレル1階

TEL 058-214-9077 FAX 058-214-9088

Email info@tsunagaru-kango.jp

HP <https://tsunagaru-kango.jp>

